

事務事業名	ごてんばの富士山豆博士事業	整理番号	31202-000
所 管	環境経済部環境課環境政策スタッフ		

事務事業の位置付け

期間	平成 18年度 ~ 平成 21年度	根拠法令・要綱等	
基本計画における位置付け	基本政策 3-1 環境の保全と自然との共生 政 策 3-1-2 環境教育・実践活動の推進	関連政策	

事務事業の内容

目的 (何のために)	御殿場の子供たちが身近な存在である富士山及び富士山麓の自然に触れ親しみ富士山を取り巻く自然環境の大切さ素晴らしさを再認識するとともに新たな発見をし、それぞれが「富士山豆博士」になることを目的とする。
対 象 (誰・何を)	市内の小・中学校全 16 校
手 段 (どのようなやり方で)	各学校に 15 万円の交付金を交付することにより、学校の独自性や地域性を生かした取り組みを行う事業で、市内の小中学校 4 校づつ 4 年間に渡り実施する。年度末に各学校の取組成果を展示し、代表者への認定証授与式を開催。広報ごてんばにも掲載し広く市民に公表する。
成 果 (どのような状態にしたいか)	御殿場の子供たちが、身近な存在である富士山及び富士山麓の自然に触れ親しみ、富士山を取り巻く自然環境の大切さ、素晴らしさを再認識するとともに新たな発見をし、環境保全意識を高める。さらに、成果を公表することで、市民も富士山の大切さ素晴らしさを再認識し、環境保全意識を高める機会となる。
事務事業の背景・住民の意向	富士山基金が創設されてから 10 年経過し、市長から「富士山基金委員会」に富士山の学術文化の振興と環境の維持保全を目的とした「ごてんばの富士山豆博士事業」の諮問が行われ、審議の結果妥当なものと答申された。
見直し改善の経過	

事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)
平成16年度		
平成17年度		
平成18年度	神山小学校・高根小学校・御殿場中学校・南中学校	

評価指標

<p>取組児童・生徒一人当たりのコスト(円)</p>	<p>実施校における取組児童・生徒数の割合 (%)</p>	<p>取組成果の公表・公開回数(回)</p>
----------------------------	-------------------------------	------------------------

事務事業の評価

観点別・一次評価(担当部署の評価)	コメント								
<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">観点別評価</td> <td>必要性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td></td> </tr> </table>	観点別評価	必要性		有効性		効率性		平成 18 年度実施校 4 校で 945 名の「ごてんばの富士山豆博士」が誕生し各学校の取組成果を広報ごてんばに掲載するとともに、市役所市民ホールに展示し、認定証授与式を開催した。広く市民に公表することにより、子供たちのみならず多くの市民が富士山の大切さ素晴らしさを再認識し、環境保全意識を高める有効な事業。	今後の方向性
観点別評価		必要性							
		有効性							
	効率性								
一次評価	A	継続							
二次評価(行政評価委員会の評価)	コメント		今後の方向性						
二次評価	B	実施した学校でのその後の取り組みを含め、有効な展示・公表方法の検討をされたい。	継続						

改革プラン

平成19年度からの対応	取組成果を毎年夏に開催される「こども環境会議(エコアクション)」等に展示することにより、さらに多くの子供たちや市民に「富士山」の大切さ素晴らしさを再認識してもらい、環境意識の高揚を図る。
平成20年度以降の対応	取組成果を毎年夏に開催される「こども環境会議(エコアクション)」等に展示することにより、さらに多くの子供たちや市民に「富士山」の大切さ素晴らしさを再認識してもらい、環境意識の高揚を図る。
改革により予想される成果	展示する機会が増えることにより、取組児童・生徒のみならず、より多くの子どもたち・市民が「富士山」の大切さ、素晴らしさを再認識し、環境意識の高揚を図ることができる。